



平成23年7月22日

「かがわアグリノベーションズのコンソーシアム」について

国立大学法人香川大学、株式会社百十四銀行、民間外部アドバイザーは、主にアグリビジネスに関連する地域産業の活性化と地域経済の発展に寄与するため、コンソーシアムの設立に関して合意しましたので、近く協定を締結し活動をスタートいたします。

本コンソーシアムの特徴は、

- 他産業で用いられる経済や経営理論などをアグリビジネスに適用する
- 大学のシーズ発ではなく、企業のニーズ発の産学連携である
- 新商品や新技術等の開発支援だけにとどまらず、事業計画策定、設備投資、販路拡大等々の企業の事業拡大、成長支援までを進めていくことにあります。

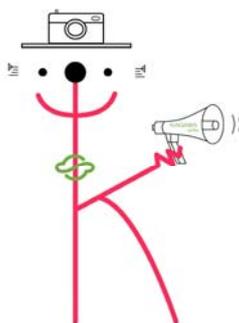
具体的な取り組みとして、香川県の主要な地場産業である小豆島のオリーブ加工ビジネスを対象に事業モデルの研究を行う予定としております。

オリーブを対象とする理由として、

- 化粧品や健康食品など付加価値が高い商品の原材料である
 - 小豆島においては、オリーブの供給が不足しており、今後、増産が見込まれている
(例えば、30,000本以上のオリーブの苗木の寄付が計画されている。)
 - 異業種からの参入が多く、農業の自給率向上に繋がる
 - 香川県の県花・県木という地域のシンボルを活用した産業である
- ことが挙げられます。

活動の事務局を香川大学大学院地域マネジメント研究科に置き、2ヶ月に1回程度の研究会を開催しながら、事業を進めてまいります。

以上



問い合わせ先

香川大学 大学院地域マネジメント研究科

教授 板倉 宏昭 TEL : 087-832-1900

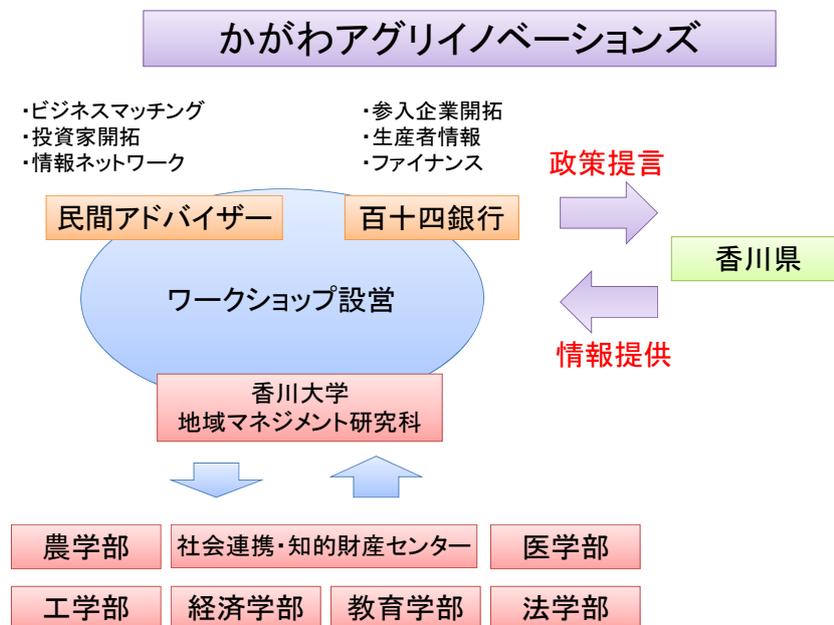
E-mail : itakura@gsm.kagawa-u.ac.jp

かがわアグリノベーションズ

1. かがわアグリノベーションズの枠組み

以下の3者がメンバーとなる産官学連携の研究コンソーシアム。

- 1) 香川大学（地域マネジメント研究科、農学部、社会連携・知的財産センター）
- 2) 百十四銀行（地域コンサルティンググループ）
- 3) 民間外部アドバイザー
 - ・地域マネジメント研究科（ビジネススクール）がコーディネーター兼事務局。
 - ・工学部、医学部、経済学部、教育学部、法学部も参加。



2. アグリビジネスモデルの対象

具体的には第1弾として、香川県小豆島のオリーブ加工ビジネスを対象として香川県の主要な地場産業である小豆島のオリーブ加工産業の事業モデルの研究を行う。

2.1 特徴

- ・他産業で用いられる経済や経営理論などをアグリビジネスに適用する。
- ・大学のシーズ発ではなく、企業のニーズ発の産学官連携であること。
- ・新商品や新技術等の開発支援だけに留まらず、その先の事業計画策定、設備投資、販路拡大等々の企業の事業拡大、成長支援までを産学官の連携により進めていくこと。

2.2 オリーブを対象とする理由

化粧品や健康食品など付加価値が高い作物であること。

香川県小豆島ではオリーブの供給が不足しており、30,000 本以上の町への寄付等の植樹が計画されている。

異業種から農業分野への参入が多く、農業の自給率向上に繋がる。

香川県の県花・県木という地域資源を活用した産業であること。

2.3 背景

1) 地域の具体的なテーマを研究することは、研究面でメリットがある。

地域ブランド構築（物語効果）

基準作り(小豆島産)

科学的な根拠

都市部とのつながり

デザイン性

注1 ポリフェノールを高濃度で抽出、ヤマヒサと農学部は、苦みをとる事に成功し特許を申請している。

注2 オリーブの葉はオレウロペインが豊富

2) 教育面でも、野村證券様から、学生のプロジェクト研究などの評価をしてもらえる。

3) 認証評価でも地域の外部評価をいれることは有効である。

4) ビジネスのマッチングや地域活性化に貢献。

5) 瀬戸内国際芸術祭に向けた地域産品の販売拡大など地域貢献につながる

6) 県産品の販路拡大に貢献できる。

3. 今後の進め方など

・香川大学（幸町キャンパスを予定）にて研究会を開催する。

・事務局は、香川大学地域マネジメント研究科が担当する。

オリーブビジネス事例



香川大学大学院
地域マネジメント研究科
板倉宏昭



オリーブの花
(5月下旬～6月中旬)
5年～8年で成長
明治時代から
原産:地中海
地中海性気候に近い



手書きのエディションナ
ンバー付き説明書

⇒スノッブ効果

物語効果 (Story Telling Effect)



スペインのアンダルシア地方
「聖地」としての小豆島
1000年間使われている信頼感

中央商店街 (MeiPAM)
(旧寿司店の現代アート)



地域の課題

- 小豆島産のオリーブの需要が拡大しているが供給が追いつかず、農地の確保が急務
- 耕作放棄地の再生法が課題となっている
- 害虫の被害が多くあり、この害虫対策も課題
- 2010年は暑さのため不作だった
- 2011年は少し遅いが豊作が予想される

寄付(オリーブの苗)

- A社では、オリーブ苗木を土庄町の振興に役立てるため、毎年3000本を10年間に亘って贈呈している
- 土庄町3000本 × 10年 = 3万本
- 多度津500本
- 犬島

A社

所在地：〒761-4113 香川県小豆郡土庄町甲2721-1

資本金：3,500万円

事業内容：

- オモルフィア化粧品事業部 小豆島産オリーブオイルを活用した化粧品事業
- 柳生屋食品事業部 讃岐饅頭、小豆島素麺、食用オリーブオイル、醤油など小豆島の地場産食材の卸売、オリジナルブランドの開発と販売。
- 島内事業として酒類、食品、ギフト、LPガス、燃料を販売する店舗展開
- A社は、もともと酒屋であった。
人口減少や大型スーパーの進出で、危機感を持ち、オリーブ農園を始めた。



A社
代表取締役会長



MeiPAM



A社社員
オリーブの森創生組合
リーダー

1. はじめに

成熟化が先行する地方圏

地方圏の有効な地域力創出モデル

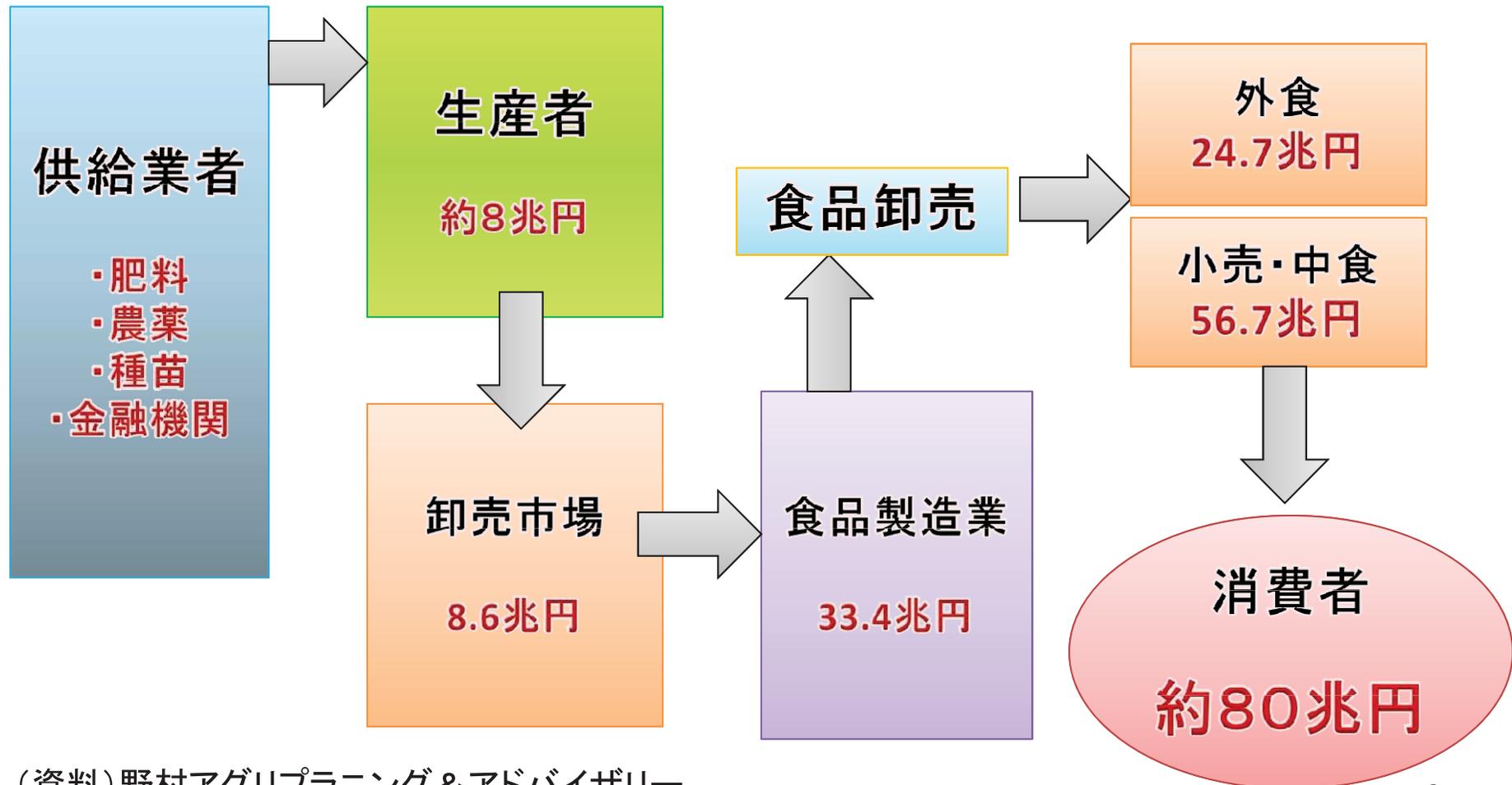


内部力と外部力の新結合



超産業戦略

超産業戦略の可能性



(資料)野村アグリプランニング&アドバイザー

成熟化社会の地域力創出・・・新たな産業観

農林業センサス(速報値)(農林水産省, 2010年)

■ 農業就業人口減少(260万人, 5年間で75万人減少、
22.4%減)

■ 耕作放棄地増加(40万ヘクタール, 香川県の2倍以上)



■ 既存の耕作放棄地の引き継ぎが有効

■ 農地を他の農業法人等に貸与する傾向

農林業センサス(速報値)(農林水産省, 2010年)

■法人を含む経営体数

経営規模が5ヘクタール未満・・・減少

5ヘクタール以上・・・増加

経営体の平均経営面積・・・5年前より

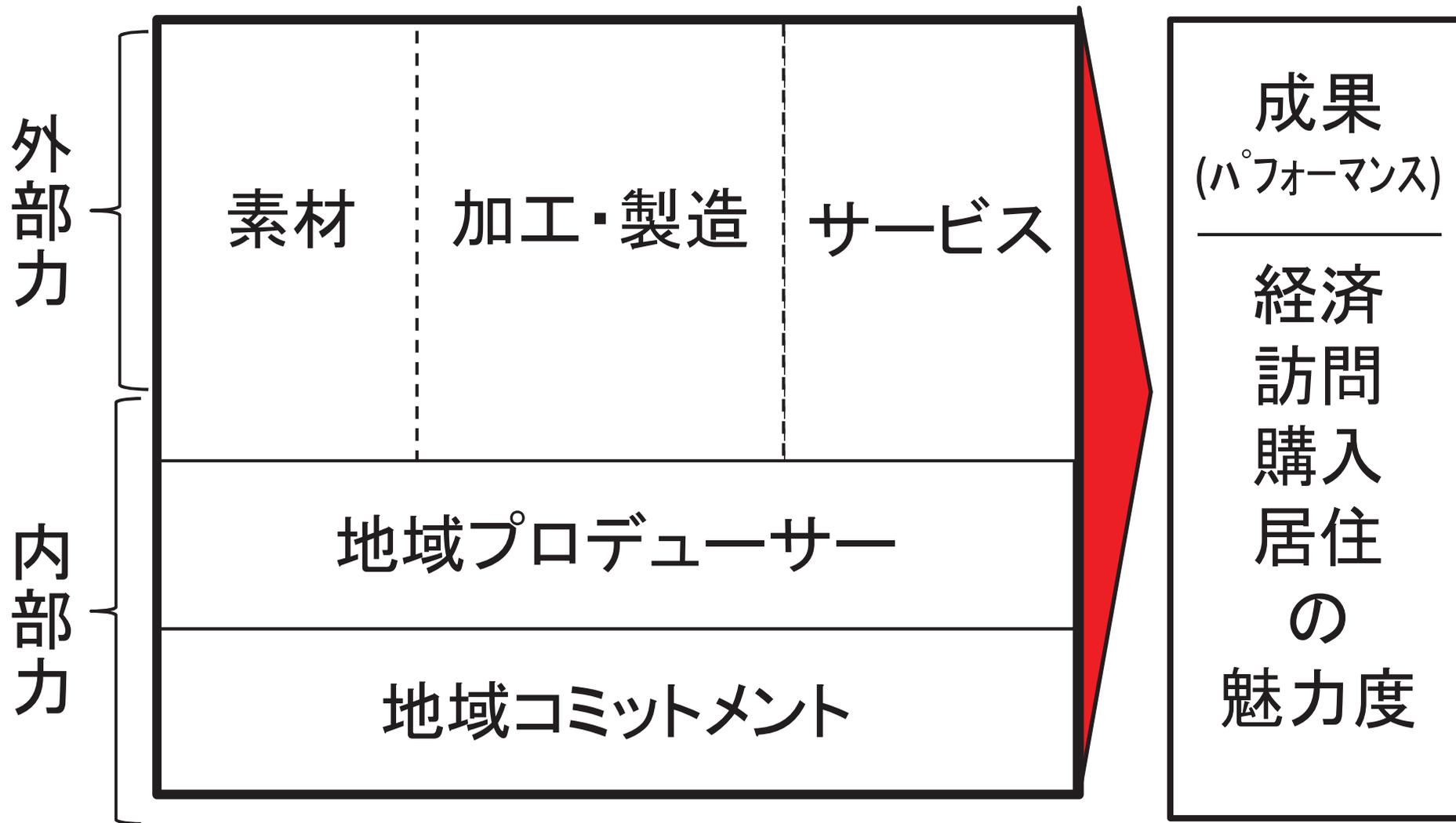
0.3ヘクタール拡大し、2.2ヘクタール

■農業経営の多角化

農産物加工に取り組む農業経営体・・・

4割以上増えて3万4000となり大幅増加

超産業戦略



2. 超産業化の概念

超産業化とは

素材を生かしながら、加工・製造によって付加価値を高め、サービスを提供する産業を超えたビジネスモデル

農業では・・・

- 農産物を加工・製造し食品として付加価値
 - レストラン、農業体験、観光などのサービス業
- 
- 6次産業化・農業の総合産業化
 - 超産業・・・3次産業から1次産業や2次産業への融合

オリーブの選定理由

- 化粧品、健康食品など付加価値が高い作物 ➡ 所得向上
オリーブサイダー、オリーブはまち、オリーブぶり、
オリーブ牛、オリーブそうめん
- 美肌作りのための成分
オレウロペイン、ポリフェノール、
ビタミンE, A(カロチン)、スクアレン、クロロフィル、
ミネラル、オレイン酸
- 30000本の土庄町への寄付などにより、自給率の向上
- 異分野からの参入多い(天草で、九電工株式会社)
- 香川県の県花・県木であり、地域資源を活用した産業
- 他県(天草、三重)などとの競争

オリーブの特徴

バージンオリーブオイルは、果肉の各種成分がそのままであり、味や香りが失われないため、植物油の女王と呼ばれる

その理由は・・・

- ほとんどの植物油が種子からの油なのに対して、オリーブ油は果肉の油であり、化学薬剤を使用せずに、食用にすることができる
- オリーブ油は、精製をしないため、味や香りが失われない

歴史

■ 1908年(明治41年)

小豆島に初めてオリーブが植樹された。

当時の農商務省が三重県、鹿児島県、香川県で、米国から輸入した苗木により植樹したのが始まり。

他の地域が栽培を断念する中、小豆島の西村地区に植えたオリーブだけが順調に育った

■ 大正の初め

搾油が出来るほど実をつけるまでになった

■ 1950年3月15日

昭和天皇が小豆島にお立寄りになり、オリーブの種を蒔かれた。そのうちの1本が立派に成長をしており、小豆島オリーブ公園に現存している。

3月15日は、1972年から、オリーブの日と制定されている
(小豆島オリーブ公園, 2011)

四国のアグリビジネス



小豆島:オリーブ



上勝町:いろどり:つまもの



馬路村:JA:ゆず



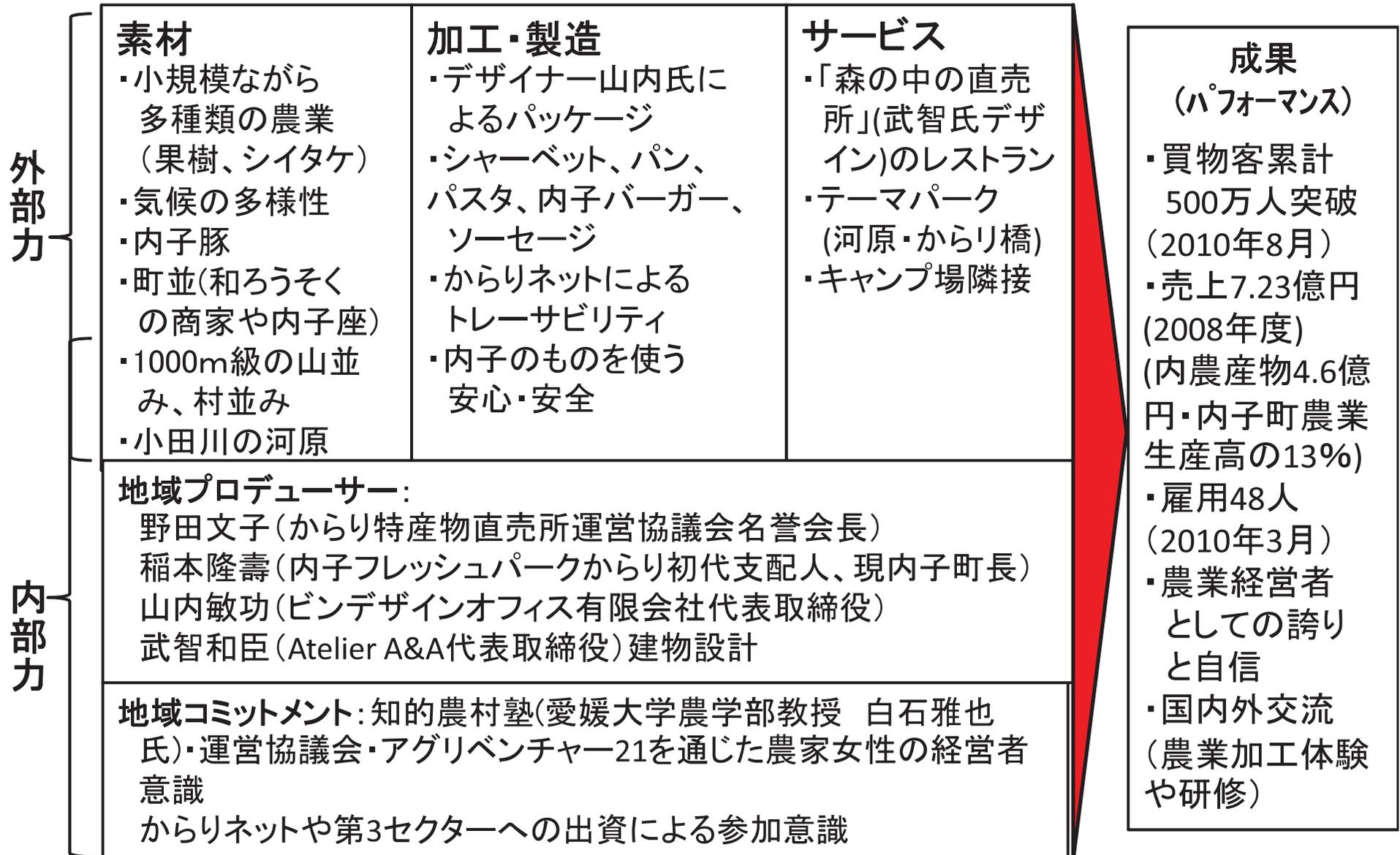
内子町:
フレッシュパークからり:産直



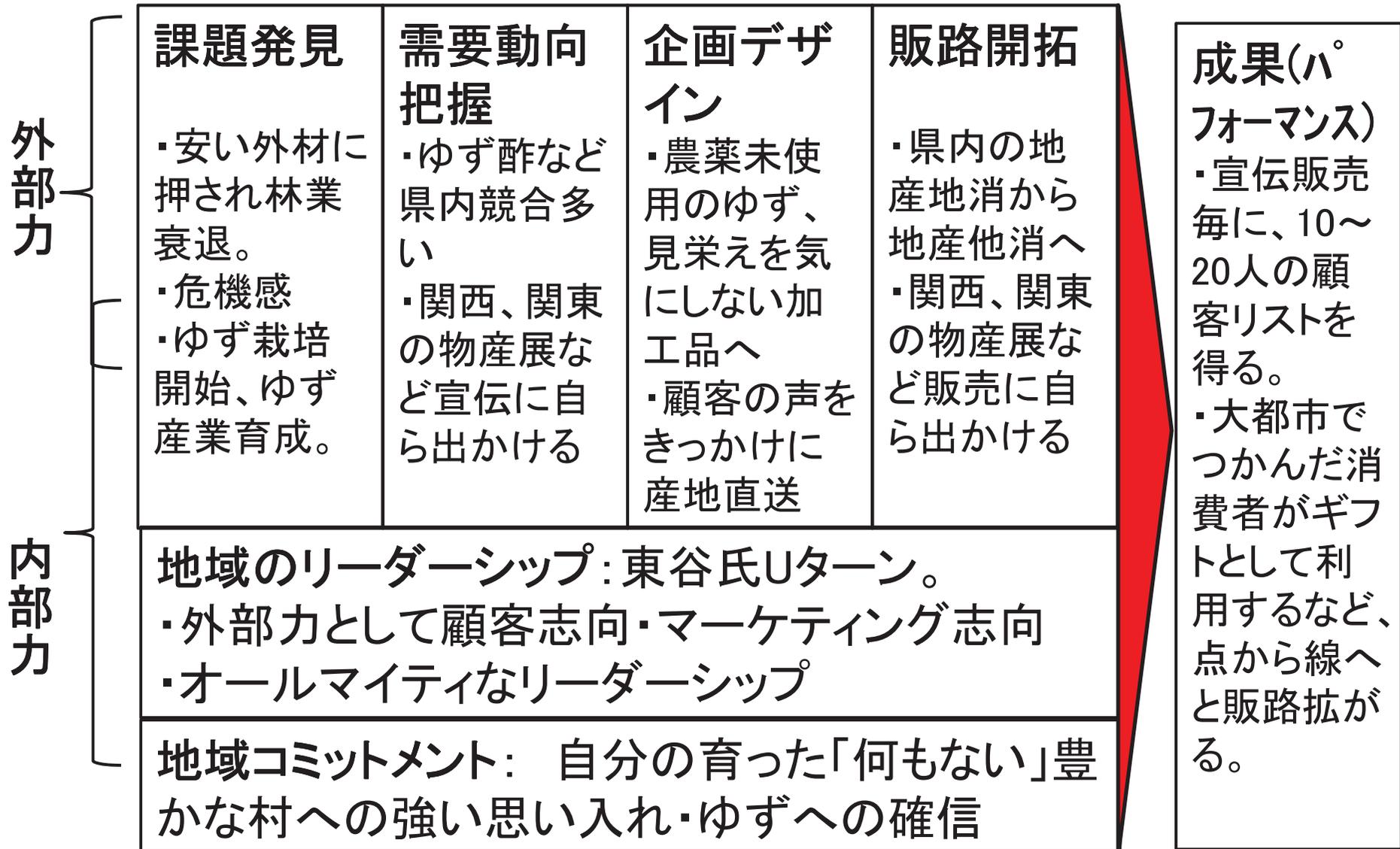
上勝町葉っぱビジネスの超産業戦略

外部力	素材 <ul style="list-style-type: none"> ・輸入木材増加 ・温州みかんの生産過剰 ・1981年2月異常寒波でみかん壊滅状態 	加工・製造 <ul style="list-style-type: none"> ・売れる商品づくり(高級料亭ホテルに視察) ・高齢女子が参加できる彩ビジネス ・「彩」(料理を彩る) ・全国の市場、観光地等への営業活動と販路ネットワークの構築 ・シイタケにより年間を通じた収入 ・320品目以上(紅葉、いちょうなど葉っぱ、おせち料理用飾り物、緑葉のはし置き「翠」) ・高冷地野菜(野沢菜、ホウレンソウ、シイタケ) ・ユコウのドリンク 	サービス <ul style="list-style-type: none"> ・いどろ情報ネットワーク(防災行政無線と光ファイバー)で短納期、多品種、小ロット対応 ・専用キーボード ・料亭等の消費者から情報収集 ・全国へ情報発信(マスコミ、ホームページ等) ・アート・プロジェクト 	成果 (パフォーマンス) <ul style="list-style-type: none"> ・高齢女子が働ける「居場所」を創出 ・年商2億円 ・つまものシェア80% ・高齢者が経営者の自覚 ・高齢者が競争意識 ・年収1000万円超の高齢者 ・一人あたり医療費県内最低 ・寝たきり高齢者の減少 ・4000人/年の視察者(人口の倍) ・Uターン・Iターン(人口社会増) ・ゴミ問題等の諸課題に住民が積極的に参加
	地域プロデューサー: 横石知二(株式会社いどろ代表取締役 副社長) (元上勝町農業協同組合営農指導員)			
	地域コミットメント: 知的農村塾(愛媛大学農学部教授 白石雅也) <ul style="list-style-type: none"> ・人口1800人(65歳以上52%)(四国で最も人口の少ない町)(平成22年) ・ゼロウェイスト宣言(2020年までにゴミの焼却・埋め立てをなくす) ・住民ひとりひとりが町について疑問(1Q)を持ち、一休さんのように知恵を出しながら町を明るくする「1Q運動」 			
内部力				

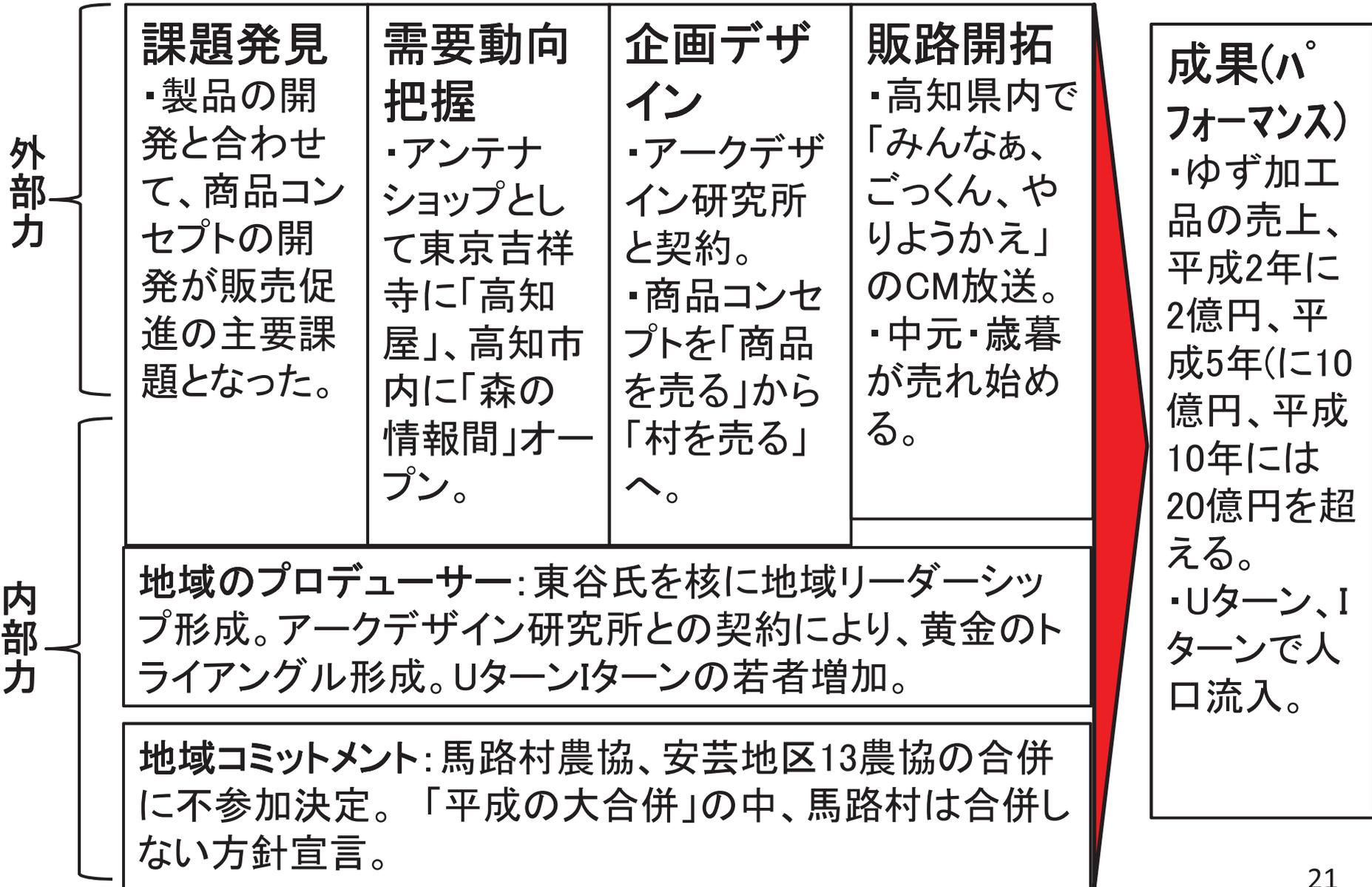
内子フレッシュパークからりの超産業戦略



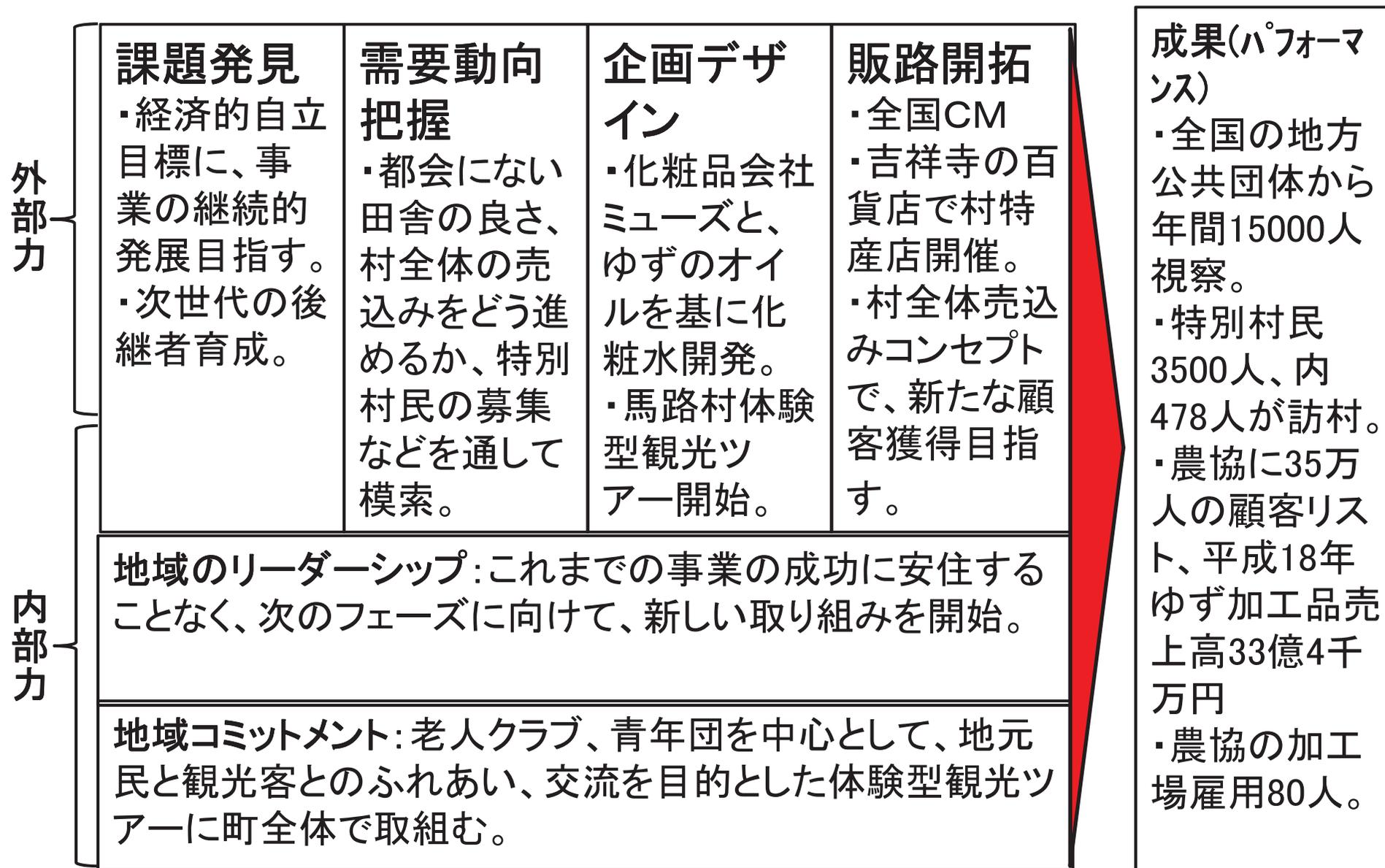
馬路村の萌芽期の地域バリューチェーン



馬路村の成長期の地域バリューチェーン



馬路村の成熟期の地域バリューチェーン



地域マネジメント研究科学生による 地域活性化につながる地元食材をつかった商品開発

四国の食材
のおいしい
食材を使う
商品を提案



バイヤーへの商品提案

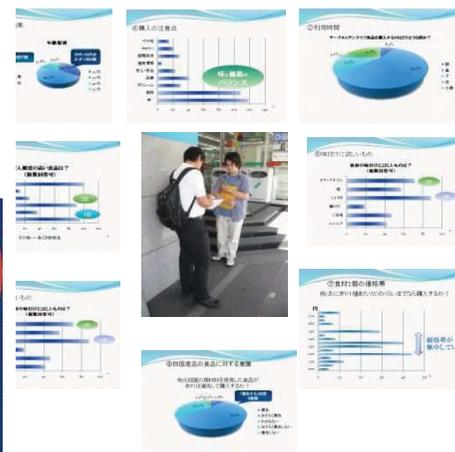


サークルKサンクス

「MOTプロジェクト」
JIMOTO=じもと(地元)
MOTTO=もっと
MOTTAINAI=もったいない
地域のお客様に愛されるお店づくり
の一環としての地産地消活動

有限会社パイプライン

焼き豚Pの製造を手掛ける
地元企業
・地域の活性化につながる地
元食材を使った商品を中心



学生による店頭でのリサーチ

大学院地域マネジメント研究科



地域プロデューサーの養成

讃岐三昧



『しっぽくうどん風おにぎり』マルキン醤油を使用したダシご飯に、刻んだニンジン・大根・油揚げ等を使用。

『オムライス風おにぎり』讃岐コーチンを使用したチキンライスをタマゴで包んだオムライス風。

『坦々風おにぎり』坦々麺のスープを焼豚Pの焼豚に併せおにぎりの具材を使用。

商品化へ



学生によるおにぎりの販売風景

ありがとうございました

香川大学大学院地域マネジメント研究科

板倉宏昭

Web: <http://www.gsm.kagawa-u.ac.jp>

電子メール itakura@gsm.kagawa-u.ac.jp